

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		摂南大学		設置者名		学校法人 常翔学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成20年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
工学部	都市環境システム工学科	70人	中一種免(数学)	平成19年度	83人	1人	/	0人
			高一種免(数学)	平成19年度				
			高一種免(工業)	昭和50年度				
	建築学科	90人	中一種免(数学)	平成19年度	79人	1人	/	0人
			高一種免(数学)	平成19年度				
			高一種免(工業)	昭和50年度				
	電気電子工学科	80人	中一種免(数学)	平成19年度	86人	5人	/	0人
			高一種免(数学)	平成19年度				
			高一種免(工業)	昭和50年度				
	機械工学科	90人	中一種免(数学)	平成19年度	84人	3人	/	1人
			高一種免(数学)	平成19年度				
			高一種免(工業)	昭和50年度				
マネジメントシステム工学科	70人	中一種免(数学)	平成19年度	90人	6人	/	0人	
		高一種免(数学)	平成19年度					
		高一種免(工業)	昭和50年度					6人
		高一種免(情報)	平成14年度					6人
外国語学部	外国語学科	220人	中一種免(英語)	昭和57年度	183人	22人	17人	3人
			中一種免(中国語)	平成15年度			1人	
			高一種免(英語)	昭和57年度			21人	
			高一種免(中国語)	平成15年度			1人	
経営情報学部	経営学科	115人	中一種免(社会)	平成18年度	/	/	/	/
			高一種免(公民)	平成18年度				
			高一種免(商業)	平成18年度				
	経営情報学科	115人	高一種免(商業)	昭和57年度	148人	2人	1人	0人
高一種免(情報)	平成13年度	1人						
法学部	法律学科	200人	中一種免(社会)	平成16年度	165人	4人	2人	0人
			高一種免(地理歴史)	平成16年度			3人	
			高一種免(公民)	平成16年度			2人	
入学定員合計		1,050人	合計		918人	44人	71人	4人

大学名	摂南大学(大学院)			設置者名	学校法人 常翔学園			
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
薬学研究科	薬学専攻	18人	中専修免(理科)	平成15年度	15人	1人	1人	0人
			高専修免(理科)	平成15年度			1人	
工学研究科	社会開発工学専攻	8人	高専修免(工業)	平成15年度	11人	1人	1人	0人
	機械・システム工学専攻	8人	高専修免(工業)	平成15年度	6人	0人	0人	0人
			高専修免(情報)	平成18年度			0人	
電気電子工学専攻	8人	高専修免(工業)	平成15年度	3人	0人	0人	0人	
経営情報学研究科	経営情報学専攻	20人	高専修免(商業)	平成15年度	19人	0人	0人	0人
			高専修免(情報)	平成17年度			0人	
国際言語文化研究科	国際言語文化専攻	10人	中専修免(英語)	平成13年度	3人	0人	0人	0人
			高専修免(英語)	平成13年度			0人	
入学定員合計		72人	合計		57人	2人	3人	0人
備考	<p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成21年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p>							

# 実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成22年1月8日（金）

実地視察大学：摂南大学

実地視察委員：梶田叡一委員、高倉翔委員、八尾坂修委員、鷺山恭彦委員

## ■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

### <状況>

- ・大学において4学部9学科で、大学院において4研究科6専攻で教員養成を行っている。
- ・平成22年度より新たに理工学部3学科、経済学部1学科において教職課程を有する。

### <講評>

- ・学生生活の充実ぶりを垣間見る事ができた。教員養成に関する教育課程、教員組織等については、教職課程認定基準等と照らし合わせ、改善が求められる点がある。

## ■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

### <状況>

- ・建学の精神である「世のため、人のため、地域のために理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」に基づき、教員養成を行う。
- ・教員養成に対する理念は、「憲法および教育基本法をふまえ、教育への情熱と使命感、生徒の成長・発達についての科学的な認識に基づいて、日々、創意と工夫に充ちた実践的指導に努める教師、人間としてよりよき方向を生徒とともに探求する努力を惜しまない教師の養成」である。

### <講評>

- ・教員養成に対する理念を具体化・具現化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織が充実したものとなるように、これらの充実した取り組みに一層努めてほしい。

## ■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

### <講評>

- ・シラバスにおいて、授業回数にばらつきがあるため学内で統一すること。
- ・教職課程において、教育職員免許法施行規則に定める各科目に含めるべき事項を含んでいない授業科目が複数見られる。早急に改善してほしい。
- ・教職に関する科目において、開設方法が基準を満たしていない授業科目が見られる。早急に改善してほしい。

## ■ 教育実習の取組状況

### <講評>

- ・大学がその主体性と責任を持って、その企画、実施、評価にあたりとともに、事前及び事後指導については、改善を図る必要がある。
- ・平成18年7月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」で示されるように、教育実習において、課程認定大学と実習校の協力により、授業案を作成したり、教材研究の指導を行うなど、大学の教員と実習校の教員が連携して指導に当たる機会を積極的に取り入れることが必要である。また、実習実績の評価についても、適切な役割分担の下に、協働して行うことが適当であるが、その場合には、実習校により評価にばらつきが生じないように留意する必要がある。
- ・母校実習については、平成18年7月答申において、大学側の対応や評価の客観性の確保の点で課題も指摘されているため、できるだけ避ける方向で検討してほしい。
- ・さらなる実習の成果をあげるため、事前指導の実施に関し、模擬授業やマイクロティーチング等を行うなど、授業方法に工夫を図ることが望ましい。

## ■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

### <状況>

- ・「地域連携教育活動Ⅰ、Ⅱ」・・・近隣の幼稚園、小学校、中学校において課外活動、放課後教室等の教育補助活動を行う。

### <講評>

- ・上記の活動をどのように教職課程にフィードバックしていくのかを再考し、充実した取り組みとなるようより一層努めてほしい。

## ■ 教職指導及びその指導体制の状況

### <状況>

- ・教職教室、教務課、学務事務室において、履修相談に個別対応している。
- ・新生には、入学式直後のガイダンスにおいて教職ガイダンスを行い、教職課程を履修するにあたっての心構えや4年間の履修の方法について説明している。
- ・在学生には、教職ガイダンスを行い、計画的な履修、免許取得希望者の心構え等を指導している。

### <講評>

- ・学生が積極的に教職課程を履修出来るようより一層工夫してほしい。

## ■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

### <状況>

- ・教育実習、介護等体験に関する連絡調整を行う組織として教育実習会があり、摂南大学の全学的な組織として教職課程委員会がある。

### <講評>

- ・教職課程に対する全学的な組織を十分に機能させる必要がある。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

・施設・設備は非常に充実している。これらの施設を教職課程の円滑な運営に上手く活用してほしい。